（別添資料１）

事業所名　STEPたくみ

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日　2026　年　4　月　1　日

法人（事業所）理念		作業（あそびや活動）をとおしてチャレンジする意欲を育てる		
支援方針		支援を必要とする児童が、地域や集団生活に適応することができるよう、一人ひとりの個別性・多様性に配慮をして適切な支援をおこなう。また、できることを増やすことによって、やればできる自分に気づき、自己肯定感を育み、新しいことや苦手なことにもチャレンジする意欲を育てる。		
営業時間		9 時　30 分から　18 時　30 分まで	送迎実施の有無	あり　(なし)
		支　援　内　容		
本人支援	健康・生活	日常生活に必要なスキルが獲得できるように、それぞれのお子さまの感覚特性や個別性・多様性に合わせた運動課題や机上課題、実際の場面での練習をおこなう。		
	運動・感覚	すべての児童に感覚プロファイルの評価をおこない、感覚の偏りからもたらされる生活のしづらさを評価する。活動参加のために必要な運動機能や、日常生活動作に必要な運動機能や感覚の特性、自分の体の動きを感じる感覚機能（ボディイメージ）、手順等を理解して体を使う認知機能など、体や手先を上手に使うために必要な機能的な評価をおこなう。必要に応じて作業療法士（OT）がより詳細な感覚・運動に関する評価、支援をおこなう。		
	認知・行動	視覚的に優位な特徴をいかすために、活動をおこなう際には、写真や見本を提示するなど、構造化した支援をおこない、動きのある活動内容では、大人がモデルを見せてからおこなう。また、実行機能や抑制機能について、作業場面や集団場面において評価し、お子さまにあった支援方法を日常生活や学校生活を想定して検討する。WISC－5の知能検査を用いて、必要に応じて評価する。		
	言語 コミュニケーション	大人や他児とのやりとりの中で、お子さまがどのように人やものを捉えて関わっているのか、やりとりやコミュニケーション、感情のコントロールの方法を、専門職が行動観察により評価する。また、お子さまの発達段階に基づき、総合的なことばの発達・表現力・理解力・コミュニケーション態度・ことばを使うための基本的な能力を、WISC－5の知能検査を用いて、必要に応じて評価する。		
	人間関係 社会性	身近な大人との信頼関係を基盤として、周囲の人と安心、安定した関係を形成するための支援をおこなう。また、小集団療育において他児とのやりとりを大人が促すことや、ルールのある集団活動、机上課題のソーシャルスキルトレーニング（SST）をとおして、行動を抑制する力や適切に表現する力を育む。		
家族支援		保護者さまが希望される場合は、療育場面を観察していただく。 また、発達や生活、健康状態、進路について相談できるよう希望者に面談をおこなう。	移行支援	具体的な移行先との調整、相談援助、連携をおこなう。必要に応じて、他事業所や相談支援専門員と連携をおこなう。
地域支援・地域連携		学校生活をはじめ、地域で楽しく暮らせるよう学校や関係機関、相談支援事業所と適宜連携を図っていく。	職員の質の向上	・入職時の新人研修を各分野の委員会でおこなう ・年に2回、お子さまの個別支援計画書のたたき台を作ることによるお子さまの評価をおこない、児童発達支援管理責任者や大学教員の理事長より指導を受け、記載方法を修得する ・業務内で研修に参加できる機会を設けている ・年6回の有志による勉強会や、外部での研修に積極的に参加をするように促している
主な行事等		・季節に応じた行事 ・近所のお菓子屋さんにお買い物 ・火災・地震などの定期的な避難訓練		